

採択大学等名

東北大学

(共同申請校:東北学院大学)

連携市町村名

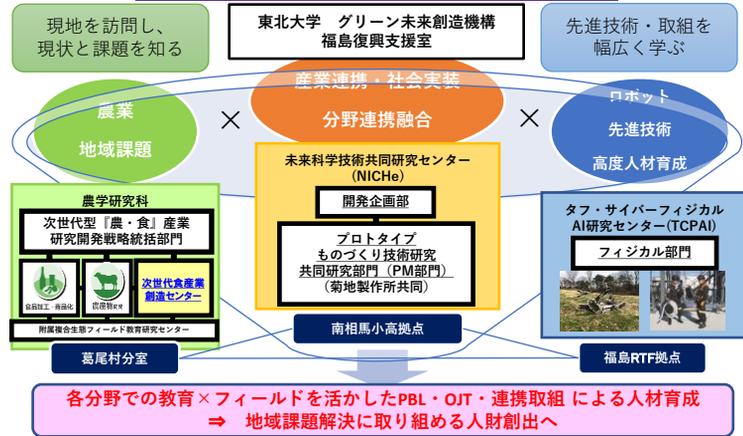
南相馬市、浪江町、葛尾村

取組概要(目的)

震災発生後10年超にわたる復興への取組経験と多様な学内リソースを動員し、課題解決と地域産業振興の具現化を行える学際的人材をOJT、PBLにより育成するための基盤構築に取り組む。このため、実施部局 (NICHe、農学研究科、TCPAI) による地域社会実装を意識した連携融合の取組を具体テーマごとに深化させる。

人材育成目標: 「先進技術・取組を幅広く学ぶ」、「技術・知見を統合し課題解決に導く」、「現地を訪問し現状と課題を知る」教育・人材育成プログラムにより、各分野の専門人材および分野連携融合を推進する人材を育成し、その掛け合わせにより具体的に地域社会の課題解決に貢献できる教育・人材育成基盤構築を推進する。

東北大学復興知事業における教育・人材育成の体制



これまでの成果

■現地拠点状況 (R4年度実績)

- 葛尾村拠点: 稼働201日、活動教職員のべ276名
- 福島RTF拠点: 稼働95日、活動教職員のべ219名 → R5南相馬小高拠点追加 (産学共同)
- ⇒ さらに、大学として浜通りリサーチキャンパス構想へ発展

■各重点分野における研究・教育

○農業分野:

- ・人材育成: 「復興農学」、「復興・IT農学実習」、被災地エクステンションの継続実施 → 葛尾村モデルを浜通り(南相馬、浪江)に水平展開、農学に加え工学系学生も参加
- ・事業創出: 浜通り産作物ブランド化・地域特産品開発
カラシナ (ふりかけ、マスタード)、加熱調理用トマト、マンゴー植物工場、ミニカリフラワーなど (郡山女子大との協力など大学間連携も)

○ロボット分野:

- ・RTFを活用したPBL教育プログラム実施: 計6件7回25日実施、のべ72名現地訪問
- ・World Robot Summitほか国際イベント誘致・実施への協力

○エネルギー・モビリティ分野:

- ・浜通り次世代セミナー: R1~4年度計26回開催、700名超参加
- ・ワイヤレス給電実証・ジュニアセミナー実施 (東北学院大)
- ・小高産業技術高校連携: R4年度出張講義6回 (電気科3年生、2年生) → R5年度 工商連携による「相双EVレース大会」(浜通り3校参加) 開催へ
- ・ものづくり新産業創出への取組: 東北スタートアッププログラムの浜通りへの展開

■分野連携融合の成果

- アイガモロボ実証: 浪江、南相馬太田でR4~実証開始。農学研究科による科学的調査
- 鳥獣被害対策ネットワーク: 葛尾村での日大連携(イノシシ対策)、NW会議の発展
- 学内体制の強化: グリーン未来創造機構・福島復興支援室の設置、東北大学全学教育科目「福島の復興・再生」の創設 (R4年度~、R5年度は60名超受講)

■その他、地域活性化への貢献

- ・次世代モビリティ実装: RTF、南相馬市に超小型EV各1台譲渡、大熊町計画協力
- ・地域イベント協力: 葛尾村あぜりあ市、ロボテスEXPO、ロボテス緑日、南相馬市子ども未来フェスティバル、復興なみえ十日まつり など多数



アイガモロボット導入セミナー

事業終了時点の成果及びその後の見通し

○各重点分野における現地研究活動の持続発展 + 分野連携融合の促進 + 地域への還元

- ・スマート農業・ICT農業 x ロボット・エネルギー・先進技術 ⇒ 「半農半X」モデル構築 例: アイガモロボ実証
- ・地域データ収集・利活用によるDX次世代化: 鳥獣被害対策NWからの発展
- ・福島RTFや現地拠点を活用したOJT・PBL人材育成、企業連携、大学間連携等のさらなる推進

⇒ 東北大学サイエンスパーク構想へ: 東北大学浜通りキャンパス設置、F-REI連携による創造的復興、雇用・にぎわい創出

